

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和元年11月11日（月）～令和元年11月17日（日）〔令和元年第46週〕の感染症発生状況

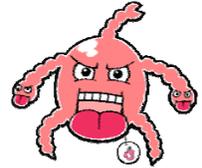
第46週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)インフルエンザでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.03人と前週（3.27人）から増加し、例年より低いレベルで推移しています。

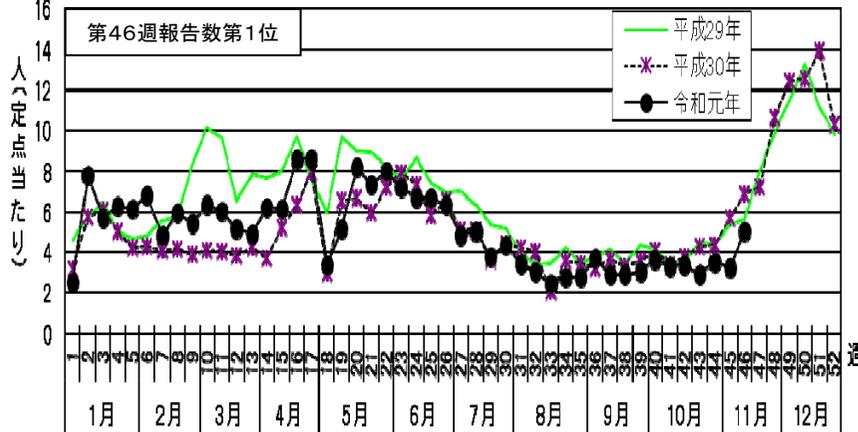
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.73人と前週（3.03人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は2.67人と前週（1.33人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

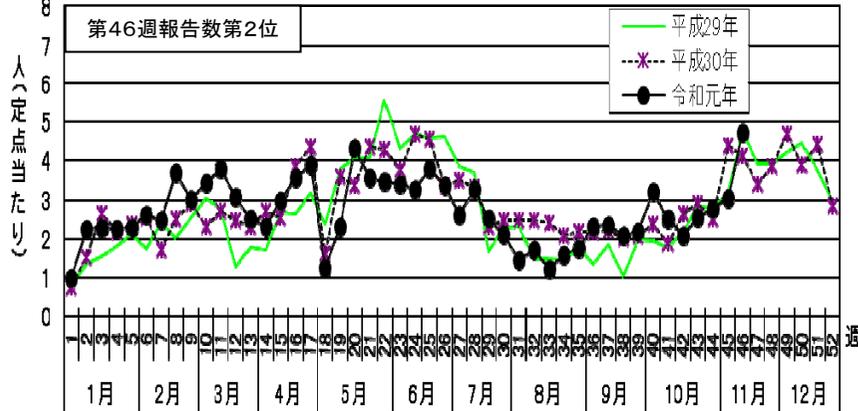
溶連菌
★ヨーレンくん★



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱とともに咽頭炎などの症状を引き起こす細菌感染症で、主に春～初夏及び冬季に流行がみられます。

川崎市においては、令和元年8月下旬以降、過去5年間平均と比べてやや高いレベルで推移していましたが、令和元年第46週（11月11日～11月17日）には定点当たり患者報告数が4.73人となり、前週の定点当たり3.03人から急増しました。特に宮前区、高津区、川崎区での報告が多くなっています。

就学前後の小児の報告が多いため、集団施設などでの流行には注意しましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは？

【感染経路】

接触感染、飛沫感染

【潜伏期間】

2～5日間

【主な症状】

突然の発熱、全身倦怠感、咽頭炎・咽頭痛、
 莓舌（イチゴのように赤くポツポツした状態）、
 体や手足に小さくて紅い点状発疹など
 ※合併症としてリウマチ熱、急性糸球体腎炎などを引き起こすことがあります。

【治療】

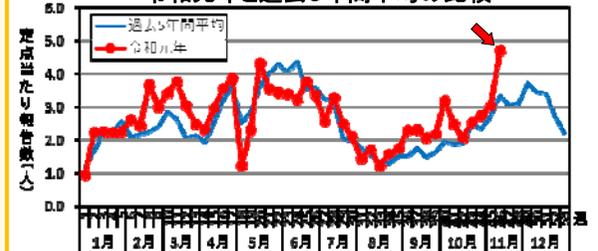
抗菌薬治療
 ※処方された薬は最後までしっかり飲むことが大切です。

【予防対策】

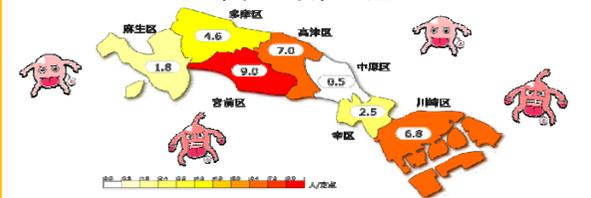
患者との濃厚接触を避ける、手洗いなど



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況
—令和元年と過去5年間平均の比較—



川崎市におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎分布マップ
—令和元年第46週—



川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)